

★ ネギ・タマネギのべと病 情報

ネギでべと病の発生を確認しています。
今後の発生動向に注意してください。

- 1 対象作物 ネギ及びタマネギ
- 2 病害虫名 べと病
- 3 対象地域 府内全域
- 4 発生状況と今後の発生

- ・農林センター環境部が約7日間隔で実施しているネギべと病の発生調査では、南丹地域で発生を認めています。3月3日現在、同地域の発病株率は1.5%、**発生ほ場率は90.9% (表)と、非常に高くなっています。**
- ・大阪管区气象台が3月4日に発表した「近畿地方の向こう1か月の気象予報」では、「**気温は平年比高く、降水量は近畿太平洋側で平年並または多く、近畿日本海側で平年並。**」と予想されていることから、**ネギ及びタマネギのべと病の発生はさらに増加することが懸念されます。現在、発生を認めていない山城地域も含めて、今後の発生に十分注意してください。**

表 ネギべと病の発生調査結果(令和3年)

調査地域	調査日	2月3日	2月10日	2月17日	2月24日	3月3日
南丹地域	調査ほ場数	11	11	11	10	11
	発病株率(%)	0.0	0.0	0.0	0.3	1.5
	発生ほ場率(%)	0.0	0.0	0.0	20.0	90.9
山城地域	調査ほ場数	17	16	19	19	25
	発病株率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

* 1ほ場あたり100株調査

防除上の注意事項

- (1) **平均気温が15℃前後で、降雨の多いときに発生が多くなる**ので、曇雨天が続く場合は、発生に注意する。
- (2) ほ場の水はけの悪い箇所から本病が発生しやすくなるので、排水に努める。
- (3) 被害葉は、翌年の発生源となるので、できるだけほ場外に持ち出し、土中深くに埋めるか、古ビニル等で被覆する。
- (4) 薬剤散布は、**べと病の発生前や発生初期から定期的に登録のある殺菌剤を散布し、まん延(二次伝染)防止に努める**。また、使用薬剤は異なる系統のものを使い、同一系統の薬剤の連用を避ける。